

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

露地胡瓜

1. 整枝について

一度に4本以上の枝を摘むような摘芯は避けてください。

3枚以上展開の生長点を3〜4本残します。

光が当たるように誘引・枝の整理を行います。

草勢が低下している場合は、収穫ビーク前の摘芯は控えてください。

2. 摘葉について

草勢を見ながら、老化葉・病葉だけではなく、採光や通風を妨げている葉を除去してください。

また、不良果の摘果を行い、草勢の回復を図ってください。

3. 灌水について

毎日灌水を行うようにしてください。毎日灌水を行うようにしてください。(曇雨天時には、回数を減らすなど調整)

高温時の灌水は避け、なるべく早朝等の涼しい時間に10a当たり3〜4tを目安に液肥と合わせ灌水してください。

い。(少量多灌水)

高日射、着果数の負担により、根の動きが弱っている所も見られますので、発根剤の使用もよろしくお願います。

また、通路や畦の方が乾いているようであれば排水を考え、水分過多にならないよう通路へ灌水を行ってください。

4. 黄化えそ病(MYSV)について

ミニキイロアザミウマの防除、及び圃場内の除草を徹底してください。

本病と疑われる症状が発生した場合、抜根するか、症状がわからない場合はJA・農業改良普及センターに連絡してください。

にら

にらにとって生育しやすい時期となってきました。株養成期間も後半になりました。収穫までの日数も少なくなってきました。収穫前に病害虫等の被害があると収量減少、品質低下に繋がる大きな原因となります。徹底防除を行い、収量増加、品質向上に努めてください。また、ビニール被覆前にはハウス内病害虫密度を減らすため、農薬散布を必ず実施するようお願いいたします。(フラインセーフフロアブル、デアアナSC、グレーシア乳剤等)

トマト類

定植が終了している方は、今後コナ

ジラミやヨトウムシ、コオロギ等の害虫の侵入が懸念されるため、十分な防除を行ってください。

また、今後の収量に大きな影響を与えますので、今の時期は根(特に直根)を張らせるような灌水管理を行ってください。

イチゴ

【開花期までに病害虫防除の徹底を!!】
活着促進のため、定植後1週間は株元を中心に灌水を行ってください。チップパーンやがく枯れが発生しないように、灌水は少量多回数で土壌中の水分変化が少ない条件にしましょう。

天敵導入圃場は、天敵に影響が長く残らない薬剤を選び、10月下旬頃から放飼出来るように防除体系を組みましょう。

またスリップスの発生も増えてくる時期なので、対策として開花後花数が少ない内に薬剤防除を行い、スリップスの対策としてホリバー(青)を、チビクロキノコバエの対策としてホリバー(黄)を設置するようお願いいたします。

ぶどう

収穫終了後の管理は、翌年の生産に影響する重要な管理となります。光合成により貯蔵養分を蓄えるため、早期落葉を防いでください。べと病やヨトウムシ、コガネムシ等の防除を行い、

日照での葉焼けや樹勢低下によって元葉が早期落葉した場合は、枝を1〜2節切り返して副梢を発生させ、3〜4枚で摘心して葉数を確保してください。また、土壌分析を行い、分析結果に基づいた施肥とたっぷり灌水を行ってください。

きんかん

果実肥大を促進するために、11月いっぱいまでたっぷり灌水(常に土が湿った状態)を行ってください。また、土壌の乾燥防止。細根の発生促進のために、敷きワラを行ってください。特に敷きワラは、収穫中のハウス内湿度を抑える効果があります。果実肥大に伴って、重さで枝が垂れ下がるの枝は、枝つりを行ってください。防除に関しては黒点病、ハダニとカメムシに注意してください。

●肥培管理

紅乗り向上や翌年の発芽対策のために、着色始め期に行います。(10月下旬〜11月上旬)

※夏芽が多く発生している樹勢の強い樹については、発芽を助長する為、施肥は控えてください。

●仕上げ摘果

先端果、すそ成り果、奇形果、病害果、傷果や小玉果の除去を行ってください。